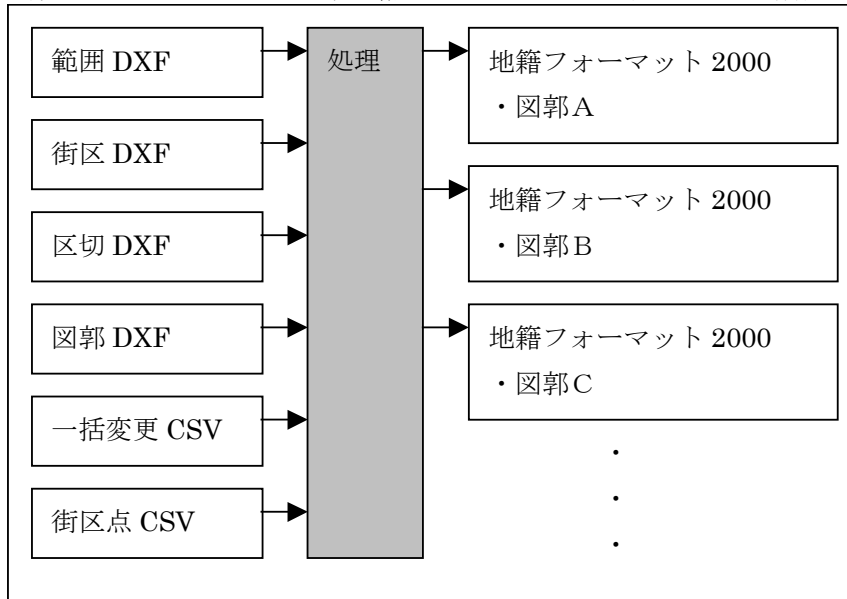


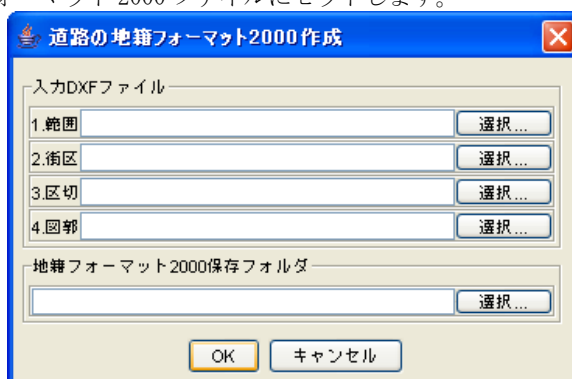
1. 道路の地籍フォーマット 2000 作成

メニュー[ツール]-[道路の地籍フォーマット 2000 作成]を追加しました。

街区以外の部分を道路のポリゴンとして、地籍フォーマット 2000 ファイルとして作成します。

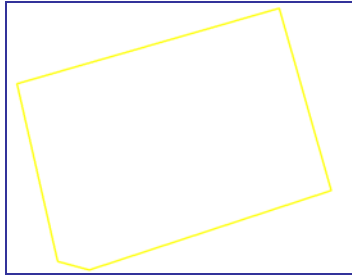


メニューを起動する前に、[ファイル]-[参照 街区点 CSV]で「街区点及び補助点成果簿フォーマット」の CSV ファイルを開いておきます。この処理では、「街区点・補助点名称」「X座標」「Y座標」「地盤高」を参照します。保存する地籍フォーマット 2000 の筆界点情報ファイルの筆界点について、XY座標から特定し、名称と地盤高を参照します。また、[ファイル]-[参照 一括変更 CSV]で、一括変更用のファイルも開いておきます。一括変更用 CSV の内容を、保存する地籍フォーマット 2000 ファイルにセットします。



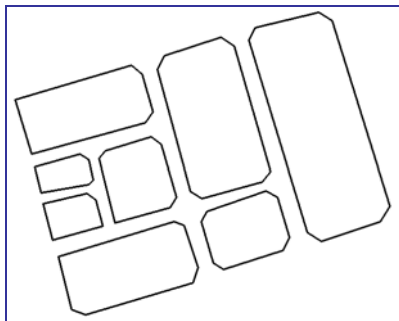
【1. 範囲】

DXF ファイルの閉じたポリラインで、道路を含む全体の範囲を指定します。DXF ファイル中には閉じたポリラインがひとつだけ入っています。ファイルリード後、ポリラインの頂点の近く 1cm 以内に街区点があれば、座標を街区点に合わせます。

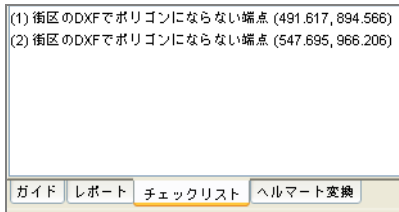


【2. 街区】

DXF ファイルで街区のポリゴンを指定します。ポリラインあるいはラインエンティティで街区を構成します。上記の範囲のポリゴンの内側に完全に入るポリゴンのみ対象とします。範囲のポリゴンの外側あるいは範囲のポリゴンと接触したり交差したりする街区ポリゴンは対象外です。街区の内側にあるポリゴンは道路とみなし、地籍フォーマット 2000 ファイルに出力します。ファイルリード後、ポリラインの頂点の近く 1cm 以内に街区点があれば、座標を街区点に合わせます。

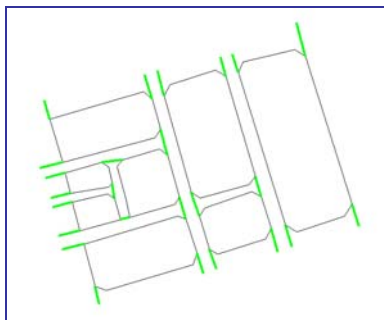


ポリラインは閉じているか、あるいは他のポリライン・ラインと見かけ上つながっている必要があります。同様にラインも他のラインあるいはポリラインと見かけ上つながっている必要があります。プログラム内部で、ポリラインとラインを接続し、ポリゴンを作成します。つながっていない箇所があれば、その座標を[チェックリスト]にリストアップし、処理を中断します。

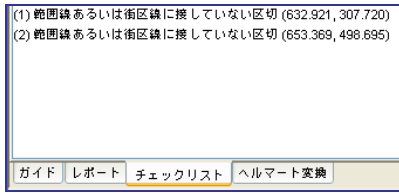


【3. 区切】

道路の区切り線を DXF ファイルで指定します。区切り線はポリラインあるいはラインエンティティです。下図の緑色の線です。



区切り線の端点が 1cm 以内の距離で街区点の近くにある場合、端点を街区点の座標に移動します。また、端点が 1cm 以内の距離で、範囲線あるいは街区線の近くがあれば、座標を線上に移動します。区切り線の端点は必ず範囲あるいは街区ポリゴンの線上にのっていないとなりません。のっていない場合、その座標を[チェックリスト]にリストアップし、処理を中断します。



【4. 図郭】

図郭の矩形と名称を DXF ファイルで指定します。図郭は矩形の閉じたポリゴンで、その中に図面番号テキストがひとつだけはいってなければなりません。矩形の中にテキストが入っていない場合、[チェックリスト]に矩形をリストアップし、処理を中止します。

阪A01	阪A02	阪A03
阪A15	阪A16	阪A17
阪A26	阪A27	阪A28

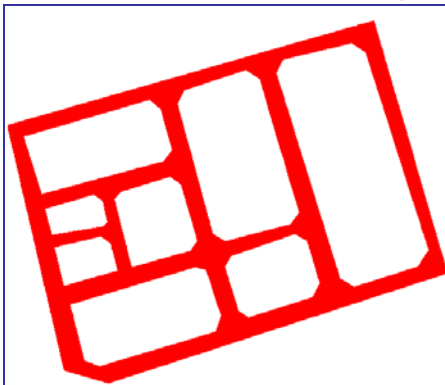
【地籍フォーマット 2000 保存フォルダ】

図郭別の地籍フォーマット 2000 ファイルを保存するフォルダを指定します。

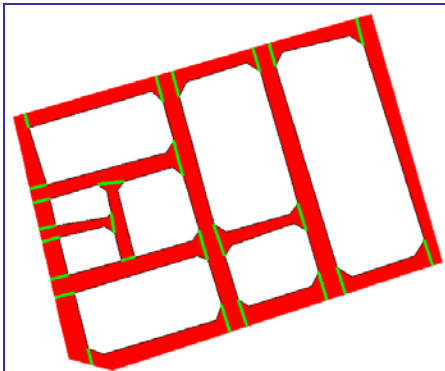
【OK】

OK ボタンで処理を開始します。

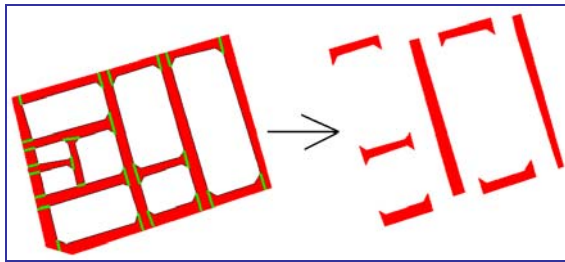
範囲ポリゴンとその内側の街区ポリゴンから、道路部分のポリゴンを作成します。



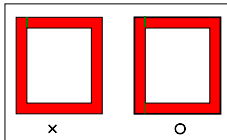
道路部分のポリゴンを区切り線で分割します。



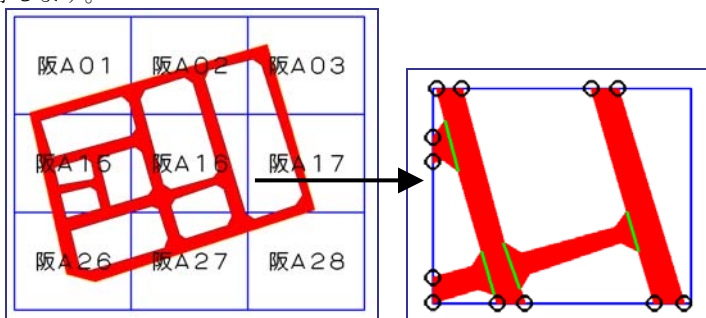
分割されたポリゴンは下図のような形状になります。



分割されたポリゴンが自分自身と接触しないように区切り線を設定しておいてください。



分割された道路のポリゴンをも、さらに図郭別に分割して、それぞれの図郭の筆として、地籍フォーマット 2000 ファイル形式で保存します。



図郭線で切断されたポリゴンの点の内、図郭線上の点(上図の○)については、筆界点情報ファイルの「筆界点の区分」は「図郭点：2」となります。「筆界点名称」はそのファイル内で「1」「2」...の連番をつけます。図郭の内側の点について「筆界点の区分」は「筆界点：1」とし、名称と地盤高は街区点 CSV から参照します。点が 1cm 以内の距離で街区点の近くにあれば、その街区点を参照します。街区点 CSV に同じ座標の点がない場合、[チェックリスト]にリストアップします。

図郭線で切断されたポリゴンは筆・長狭物図形ファイルに出力します。ポリゴンの点列は筆界点から始まるようにします。

保存する地籍フォーマット 2000 ファイルの名称は「図郭の名称」+「. 拡張子」で、図郭別に地区別情報ファイルなど以下の 6 ファイルを保存します。

(1) 地区別情報ファイル(. hed)

番号	項目	内容
1	市区町村コード	一括変更 CSV での指定
2	市区町村名	一括変更 CSV での指定
3	座標系	一括変更 CSV での指定
4	変換情報	一括変更 CSV での指定
5	作成者	一括変更 CSV での指定
6	作成年月	一括変更 CSV での指定
7	調査地区名	一括変更 CSV での指定
8	作成面積	一括変更 CSV での指定
9	測地系	一括変更 CSV での指定
10	バージョン	「Ver. 1. 1」

(2) 地図番号情報ファイル(. map)

番号	項目	内容
1	地図番号	図郭の名称(図郭の DXF でのテキストの文字列)
2	縮尺	500
3	図郭座標左下 X	図郭の DXF からの矩形
4	図郭座標左下 Y	図郭の DXF からの矩形
5	図郭座標左上 X	図郭の DXF からの矩形
6	図郭座標左上 Y	図郭の DXF からの矩形
7	図郭座標右上 X	図郭の図郭の DXF からの矩形
8	図郭座標右上 Y	図郭の DXF からの矩形

9	図郭座標右下 X	図郭の DXF からの矩形
10	図郭座標右下 Y	図郭の図郭の DXF からの矩形
11	実施機関名	一括変更 CSV での指定
12	実施区分	一括変更 CSV での指定
13	地図番号の新旧区分	2(世界測地系対応の区画番号)
14	調査年月(1)	一括変更 CSV での指定
15	測図年月(1)	一括変更 CSV での指定

(3) 筆界点情報ファイル(.pnt)

番号	項目	内容
1	筆界点名称	同じ X Y 座標の街区点の名称 図郭線上の点は「1」「2」...の連番
2	X座標	ポリゴンの点の座標
3	Y座標	ポリゴンの点の座標
4	標高	空白
5	筆界点の区分	同じ X Y 座標の街区点があれば 1 (筆界点) 図郭線上の点は 2 (図郭点)
6	標識区分	空白
7	材質区分	空白
8	測量年月	一括変更 CSV での指定
9	測定方式	空白
10	数値取得方法	空白
11	図根点等の兼用	空白
12	地盤高	同じ X Y 座標の街区点があればその地盤高 図郭線上の点は空白
13	筆界点設置者種別	一括変更 CSV での指定

(4) 筆・長狭物図形ファイル(.pol)

番号	項目	内容
1	大字コード	0
2	小字コード	0
3	大字名称	空白
4	小字名称	空白
5	地番	空白

線分種別は 1 (筆界線) とし、最後のみ 0 (最終点) です。

(5) 筆属性情報ファイル(.atr)

空のファイルを作成します。

(6) 筆界未定構成筆情報ファイル(.und)

空のファイルを作成します。

2. 成果図用 DXF ファイル作成

[ツール]-[成果図用 DXF ファイル作成]で、リードする CSV ファイルの一行目がヘッダだったのを、一行目からデータとして処理するようにしました。

- ・ 国家基準点成果簿の 4 ファイル
- ・ 公共基準点成果簿
- ・ 公共基準点(改測改算)成果簿

また、成果簿の CSV ファイルが指定されているのに存在しない場合、[レポート]パネルに赤字でワーニングを表示するようにしました

ファイルやフォルダの選択で同じフォルダをデフォルトにしました

- ・ 街区三角点、街区多角点、街区点、街区補助点
- ・ 出力ファイルの成果図用 DXF とログ TXT